

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年10月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3893600027
事業所名	グループホームゆうなぎ
(ユニット名)	南棟
記入者(管理者)	
氏名	向成 良江
自己評価作成日	令和元年 9月 21日

<p>【事業所理念】 笑顔で穏やかに暮らし！</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 山際の高台に建つ事業所は、元中学校の寮を上手く活用している。利用者が地域住民と交流する機会を増やしてつながりをより深め、地域と関わりながら生活を継続する目標に向かって努力している。令和元年7月に交替した代表者は、利用者や家族の意見や要望等を把握し職員の意見等も取り入れて、建物の改装等できていなかったことを見直す等、積極的に取り組んでいる。管理者の利用者の自己実現を重視する熱い想いを職員は理解しており、利用者本位の支援を目標に日々ケアに取り組んでいる。新代表者や職員から慕われている管理者のもと、新体制で事業所の改革に努めており、今後がますます楽しみですである。</p>
--------------------------------	---------------------------------	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日頃の会話の中で思いや暮らし方の希望や意向を聞きとっている。	○	/	○	日々の暮らしの中でしたいことや行きたいところ等、利用者の思いを聞くことができています。現在、希望を言える利用者が多く、把握した情報は記録に残し、職員全員で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	その時の顔色や表情みたり家族からの情報をもとにしてその人の立場になって行動に移している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時にも聞くようにしているが、面会に来られた時など本人をよく知る人達にも聞き話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	D-1・D-2のシートを利用し、本人の思いを聞きながら記録しているが前回不十分な箇所もあったため整理し記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	本人の思いを大切にしようとしているが職員一人一人の受け止め方が違うため、思い込みや決めつけで関わっているときも見られる時がある。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前に本人様・家族様・関係者様等からの情報を聞き取り、シート等に記録している。	/	/	○	事前調査でこれまで利用してきたサービス事業所のケアマネジャーや病院の担当者等から聞いている。家族や親族、友人等からも情報を得ており、聞き取った情報は記録している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	△	アセスメントシートを使って状態を把握しているが、職員によっては対応の仕方で変わるため、職員間でも話し合って把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	状態の変化、日頃の行動や発言など関わりながら記録する事で把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	不安や不安定になっている時はその前後に何が合ったか確認し把握に努め職員間でも伝えるようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	本人1人1人の記録、関わりなどから把握ができています。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人が必要としている事を把握し、申し送り、カンファレンス、職員会等で意見交換し検討している。	/	/	○	カンファレンス等で利用者の視点に立ち、何を要望しているか、何を必要としているかを検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	情報を元にかンファレンスなどで話し合い必要な支援をおこなっている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランを元に本人がよりよく暮らせる為の課題を明らかにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人様の情報、アセスメントを元に本人らしい暮らしが出来るケアプランの作成を心がけている。	/	/	/	利用者がより暮らしやすいように利用者や家族の意向を踏まえつつ、職員の意見やアイデア等を反映した介護計画を作成している。実際に利用者や家族の意向に沿って支援したことで要介護度が5から1になった利用者もいる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の思いや家族等の会話の中で意見を聞くことでアイデアを反映出来るよう作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者に対しても、最後までその人らしい暮らしが送れるような内容に近づけている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の人たちの協力があり交流が持っているが家族の協力が少ない為交流が少ない。今後も声掛けを行っていく。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	職員会やカンファレンス等で話し合い、介護記録の中にもプランを取り入れ職員間で共有できるようにしているが、内容の把握・理解をできない人がいるように思われる。	/	/	△	介護計画はいつでも確認できるように利用者一人ひとりのファイルに綴じているが、介護計画の内容を把握できていない職員もいるため、職員全員が把握するように徹底して取り組んで欲しい。計画に沿ったケアの実施は介護記録に残し、確認しながら日々のケアに活かせるように努めている。利用者の日頃の言葉や表情等、記録が不十分であるため、利用者一人ひとりの情報や職員の気づきやアイデア等を、わかりやすいように個別に記録して欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画をもとにケアを行い、その結果を評価し職員間で話し合いながら支援につなげている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	アセスメントや介護記録などに記録するようにしているが出来る時、出来ない時がある。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	個別に記録をとるように伝えているが出来る人、出来ない人がいる。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	カンファレンスで定期的な見直しは行っているが大きな変化があった場合にはその都度見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は6か月毎に見直している。月1回カンファレンス等で利用者の現状確認を行っている。利用者の心身等状態に変化が生じた場合は、その都度見直しを行い、状況に応じた新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	職員会で現状や変化の報告をし、他の方のカンファレンスの時にも確認を行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	その他の関係者が関わっている時にはその方たちとの見直しを行い、そうでない方は家族等で話し合いをし、見直しを行い、その方の現状にあった計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	職員会、カンファレンス、申し送り以外でも何かある時にはその都度話し合いを行っている。	/	/	○	毎月職員会議やカンファレンスを行うほか、緊急時にはその都度話し合う機会を作り、課題の解決にあたっている。参加できない職員も含め、議事録等を回覧・確認し、サインをすることで情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	会議等には全員が発言できるように声掛けしているが、そのときには発言が出ないがそれ以外で出るため今後工夫が必要と検討している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	多くの職員が参加できるよう日時は考えながら取り組んでいる。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	記録をとって回したり、職員会議後に仕事で参加出来なかった職員には伝えている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	介護日誌の伝達事項欄に記入し、みた人は必ず印を押すようにしている。大事なことには赤字で記入するようにしている。送り等でも口頭で伝え確認しあうようにしている。	/	/	○	利用者の状態の変化等を細かく記録している介護日誌の伝達事項欄を、必ず職員全員で確認・共有しており、確実に情報が伝達できるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	朝・夕の申し送りを必ず行い、早出は日勤、遅出にも情報を伝えている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日頃の会話の中でしたい事が無いか聞いたりしている。その日にしたい事があるとされる人には実行している。	/	/	/	毎日の衣服やおやつ時の飲み物等、自分で選んでもらうようにしている。利用者にはできることを取り組んでもらっており、手伝ってくれた時は、ありがとうの感謝の言葉を伝えて利用者の意欲が高まるようにしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定が出来るような声掛けをしている。例えばおやつ時の飲み物等選んでもらうようにしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自分のしたい事、言いたい事は言われていると思う。出来る範囲で支援を行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者のペースで生活出来ているが入浴時の時間やタイミングが難しい時はある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者のしたい事出来る事はしてもらうことにより笑顔もみられその都度感謝の言葉を伝えてしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情やこぼり等からよみとるようにし、本人にとってよい暮らし方ができるように支援していきたい。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会では学んでいるが、声掛け等で問題のある職員にはその都度注意している。	/	○	◎	△
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	言葉遣いや態度に気を付けていない職員が居る為その都度注意している。職員会、カンファレンス、申し送りでも話し合いを行っているがなかなか改善ができていない。	/	/	/	△
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	△	少しずつできてきている。	/	/	/	/
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	訪室時にはノックはしているが、声掛けがきちんと出来ていない時がまだあるかもしれない。	/	/	/	△
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	会議等で伝え、必ず守ってもらうようにしている。	/	/	/	/
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事を一緒に行うことで感謝の言葉、気持ちを伝える事で関係性を築けている。	/	/	/	利用者同士の関係性を把握して配席する等配慮している。世話好きな利用者、孤立した利用者が出ないように見守ってもらっている。利用者同士が不穏になりそうな時は、職員が仲介する等トラブルを未然に防ぐようにしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士が、声を掛け合ったり、いたわりあいながら暮らしていく大切さを理解出来ている職員もいる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員が仲立ちしたり、利用者にも声掛けをしながら助けてもらうこともある。食事の時などの席替えを行ったり体調によってはみんなに伝えながら利用者同士の関係を悪くならないように気を付けている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	何かあった場合にはさりげなく間に入って話をしたりさりげなく移動をしたりで大きなトラブルは今はおきていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	自宅にもどられた際に近隣の方に挨拶をしたり、面会に来られた時に話を聞いたりしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人様、家族様からの聞き取り、会話中の情報等で馴染みの美容室などの把握できている。利用者様の住まれていた場所などにドライブに行ったりすることもある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	お墓参り、集まりの会などに出かけたり、ハギキや手紙、電話でのやり取りを行っている利用者様もいるし、自宅に帰られた時近所に声を掛けに行ったりしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	来られた方が居室やフロアでゆっくり過ごせるよう声掛けを行っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	地域の行事や庭先で過ごしたり、散歩に出かけている。	○	△	○	庭先に出て外気浴や散歩をしたり、畑の野菜を見に出たりしている。保育園と連携して定期的に行事に参加させてもらう等外出も増えている。重度の利用者を含め、戸外で過ごす時間を増やし、少しでも気分転換が図れるようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援はできていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	状態を見ながら皆と同じように過ごせるよう取り組んでいる。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族の協力で行けている方も一部居られるが今後も継続し支援していきたい。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症の勉強会は行っている。利用者様の状態の変化時にはその都度話し合いを行っている。	/	/	/	台拭きや自分のコップを洗う等、利用者にはできることを取り組んでもらっており、職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	全員は出来ていないが、少しずつ取り組むことでできるようになってきている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	日常生活の中で家事等出来る事を利用者様同士で行うことが増えてきている。出来ない事は声掛けし、一緒に行うようにしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者様の生活歴、楽しみごと等考え把握している。	/	/	/	ゴミ出しや調理の下ごしらえ等、利用者には何らかの役割や出番があり、楽しみながら取り組んでもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	看取りの方、目の見えない障害の方でも自分のしたい事をし過ごせるよう取り組みを行っている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中では参加は出来ていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好みの髪型、化粧等聞き取りながら把握している。				整容の乱れや汚れがないように注意を払っているが、気づかない職員もいるため、職員全員が常に利用者の様子を確認し、さりげないカバーをする等、徹底して取り組んで欲しい。重度の利用者を含め、訪問美容等できれいに整髪し、本人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	自分で出来る方は好きなようにされている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けをしながら出来る範囲で支援を行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出や、行事がわかる方はおしゃれをされたりしているが分からない方には声掛けを行いながら服装等を決めてもらうよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	気づけない職員が居る為その職員にその都度声掛けを行っている為、さりげなくカバーできている。	○	○	△	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	希望される方は本人様、家族様が希望される店に連れて行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人様が行きつけの美容室に行けなくても、来てもらい本人様の好まれえる髪型にしてもらっている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	職員によっては大切さを理解しているのではなく食べさせているだけになっているため会議等で話し合っている。				調理の下ごしらえや後片付けなどができる利用者は、職員と一緒にしている。食べたいメニューを聞き、ちらし寿司や芋ご飯、芋炊き等季節感のある料理を取り入れている。食器は使い慣れたものを使用している。職員も一緒に席につき、利用者のいただきますの大きなかけ声で食事が始まるようになっており、必要に応じて声をかける等サポートにも努めている。重度の利用者を含め、リビングに出て調理の音や匂い等雰囲気味わってもらおうようにしている。利用者の状況に応じた食事の提供ができるように管理者を中心に話し合い、場合によっては医師のアドバイスを受ける等、利用者がバランス良く栄養が摂れるようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	献立作りには利用者様が食べたいメニューを聞きながら取り入れている。調理、後片付けも出来る利用者様と一緒にやっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者様との関わりの中で得意な事、出来そうな事等を声掛けしながら一緒にやっている。感謝の言葉は必ず伝えるようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前や本人・家族様からの聞き取りの中での情報を職員間で話確認あっている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	利用者様の希望を聞き一緒にメニュー作りを行っている。頂いた物や旬の物などを季節に応じて取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者様一人一人に合った器の工夫や食事形態に合わせた調理方法、ミキサー食、キザミ、トッピングなどは出来ている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本人様の使い慣れたものを持ってきてもらい使っている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に時間で一緒に食事をしながら、見守り、一部介助を行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	看取りの方でも食堂でみんなと一緒に過ごされている為、音やにおいは伝わっていると思われる。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量、水分量の確認は行っている。食事量が少ない方には、違う物で対応している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	時間をずらしたりタイミング等をみながら、脱水にならないよう取り組んでいる。食事とられない方は別の物で本人が食べられる物で対応している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士のアドバイスは受けていないが、職員同士で話し合いは行っている。栄養士のいるところから献立表を頂いて参考にさせてもらっている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎日の買い物で新鮮な食材を使用している。調理用具も衛生管理を日常的に行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	勉強会などを行い、理解している。				自分で歯みがきができる利用者には、任せきりなところがあるため、口腔内の状況を確認できておらず、清潔保持ができていないと言いたいため、今後は利用者全員の口腔内の健康状況を確認し、常に清潔が保持できるように努めることが望まれる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	自分で口腔ケアをされている方に対する確認がきちんとできていない時がある。自分で口腔ケアをしている方にも最後確認し出来ない方の磨きなおし等行いながら把握に努めている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯科医に毎月来てもらい口腔ケアについて学んでいる。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	本人が出来ない方は職員が行い、自分で出来る方は行えるよう声掛けをしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、声掛け誘導を行っている。清潔が保てるようにしている。			△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	すぐに予約を取り受診を行っている。定期的に歯科を受診するなど対応を行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	できるだけ最後までトイレでの排泄が出来るように対応している。				職員は排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導する等、トイレでの排泄を基本とした支援に努めている。職員はおむつ等排泄用品の必要性について話し合い、利用者一人ひとりのその時の状態に適したものを使用するようにしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	職員によっては理解できていないためカンファレンス等で話し合っている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表、記録をとる事で把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	食事の前後にトイレに座る習慣をつける。出来ない時などは排泄チェック表でパターンを把握し、トイレ誘導、支援を行っている。一人一人にあったパッドを使用している。	◎	◎		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	体操、散歩、乳製品を取り入れたりと改善に向けた取り組みを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	記録をとることで一人一人のパターンを把握し声掛け誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人様や家族様と話し合いをしながら支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の状態などに合わせて使い分けるようにしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	乳製品や体操、散歩を取り入れている。水分量の少ない方には声掛けを行いしっかりとってもらうようにしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	分かる方には声掛けをしながら、希望に沿って入浴してもらっている。	◎		◎	週2回入浴を基本としているが、利用者の要望があれば毎日の入浴も可能である。時間帯や湯温等、利用者一人ひとりの希望を尊重し、臨機応変に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	本人のペースに合わせた支援を行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の出来る範囲で入浴してもらい、出来ない事の支援を行い安心して入浴してもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	話をしたり、時間をあけたりしながら声掛け対応をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴時にはバイタル測定をし日中の本人の状態を伺いながら行っている。入浴後、水分補給をし状態確認している。				

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録をとったり送りなどで睡眠パターンを把握している。	/	/	/	日中活動を増やし、早くから床につかないように配慮することで、安眠につながるよう工夫しており、安易に薬剤に頼らないようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中声掛け作業などで体を動かすことなど工夫している。日中できるだけ起きといもらうように声掛けしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	本人が希望される方、入所前から飲まれていた方には、医師との相談で服用されてる方もいるが、それ以外の方は出来るだけ薬に頼らず医師とも連携を取りながら指示に従って支援を行っている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自由にされ好きな時に部屋に戻り休まれる方もいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	自分で電話が掛けられない人に対しては、掛けてあげる事でお話されている。手紙のやりとりもされている方おられる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	出来ない方でしようとする方には手助けを行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	いつでも電話出来るようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に渡すが本人がそのままにされている事が多い為、家族に伝えている。部屋に持って行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	何度も電話をかけたがる方には、家族に協力してもらう事もある。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解は出来ている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	利用者が行きたいとき欲しい物がある時には出掛けている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	周りにお店がないため、スーパーまで職員と行かれる事が多い。移動スーパーに毎週来てもらっている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族とも相談をしたうえで施設内での金額は決めてもらっているが、自分で使えるように支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	面会時に家族様と話し、本人様ともその都度話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族様の同意を得ている。出納帳のサインを毎月もらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	出来る限り、本人様や家族様の意向に取り組めるように行っている。	○	/	○	墓参りや実家への帰省等、利用者や家族から要望があれば臨機応変に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	工夫はされていないが自由に出入りが出来るようにしている。	◎	◎	◎	木々が多いため、毎日の落ち葉拾いをこまめに行い、玄関をはじめとした事業所の周りはきれいに清掃されている。プランターには季節の花を植える等、親しみやすく入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	馴染みのある使いやすい物を設置し利用している。家庭的な雰囲気をだせるようにしている。	○	○	○	玄関にはめだかと亀の水槽が置かれ、利用者が名前を付けて可愛がっている。元中学校の寮であったことから食堂、トイレ、風呂場は面影が残る、懐かしい感じがする。清掃が行き届き、時間を決めて換気し、空気清浄機を置く等、臭いもなく清潔感がある。壁には手作りカレンダーや行事ごとの写真を飾るほか、窓からは事業所を囲むように木々が見えるため、季節感を楽しむことができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	時間で換気をしたり、掃除等も時間を見つけて行っている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	臭いや音等、生活感があるように心掛けている。手作りカレンダー-季節感を感じるものを飾っている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	いろんな所に椅子やソファを置いて、一人になれる場所をつくっている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	カーテンを使ったり工夫はしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅から持ってきてもらい馴染みの物を使っている。	○			時計や籐のいす、こたつ、寝具等、利用者が使い慣れた物を持ち込み、住み慣れた実家での生活が継続できるように配慮している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	案内を書いたり手すりを使って自立した生活が送れるようにしている。			○	危険防止のため、硬い床にマットを敷いている。利用者が自由に点灯や消灯ができるように室内蛍光灯にひもをつけ、安全に自立した生活が送れるように配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	場所が分かるように掲示している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	日中皆が過ごしている場所においてありいつでも使えるようにしてある。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	職員にはきちんと伝え理解してもらっている。	◎	◎	◎	職員全員が玄関等に鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関は施錠されておらず、自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族の方には理解してもらっている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関にセンサーをつけている。何かあったときには近隣の方に連絡してもらっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に聞いた情報をシートにまとめ、職員間で確認し合ったり伝達しあっている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタル測定のほか食事、水分、排泄、睡眠、体重等の状態を個別に記録しチェックしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	何かがあるときにはナース、ドクター、薬剤師に連絡をし気軽に相談できるようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人様、家族様が希望する病院に受診している。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人様、家族様の希望を取り入れつつ、かかりつけ医院と事業所の関係を築きながら支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診後、必ず家族に連絡し伝えている。申し送りなどで職員にも情報を伝達している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	個別記録等を持参し日頃のケア、内容など情報はきちんと提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	受診時にわかる範囲で伝えるようにしている。入院しても病院と連携を取り状態を確認している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	相談員さんたちと関係づくりしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	協力医療機関の看護師、薬剤師に伝え、相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間いつでも連絡がつき、対応可能な体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日のバイタル測定を行っている。ドクター、ナース、薬剤師に、変化や異常が見られた場合にはすぐに報告し適切な対応が出来るようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋はいつでも確認出来るようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	△	飲み忘れや誤薬を防ぐ為、何か気になる事がある時には確認が出来るように薬剤師が入っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬剤師が入っている事で本人様一人一人確認してもらったり状態を伝えたりして確認を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬剤師が入る事で、経過や変化など伝えて、見直しや状態を主治医に伝えてもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居前には家族に確認を行っている。その都度家族、主治医と相談、話し合いを行っている。	/	/	/	看取り指針を定め、重度化や終末期の対応について家族や医療関係者、職員等を交えて話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	本人様、家族様とのやり取りだけではなく、必要に応じて看護師、ドクターと話し合い、本人様にとってどうあったらよいか確認しながら支援内容を検討している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	電話、メールに連絡しただけで対応出来るようにしてもらっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	伝えようとして対応を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	準備を行っている。連携を図りながら体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	その都度話を聞いてあげているが職員の声掛け次第で不安にさせたことがあった為、十分気を付けるようもう一度再確認している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修に行ったり勉強会などで報告し学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	流れの書いてあるマニュアルのもと、いつでもできるよう訓練を行っていききたい。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビや新聞などで情報は取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	学校、病院、施設等から情報を得て予防対策等対応出来るようにしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関先に消毒・マスクを置いたり、各部屋の洗面台にも消毒を設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	家族との交流、面会時に話が出来ている職員もいる。				そうめん流しやクリスマス会、バーベキュー等、家族が参加できる機会を作って交流を深めている。遠方の家族を含め、毎月担当職員がゆうなぎ通信と手紙を添えて送り、利用者の様子を伝えるようにしている。事業所の行事等は家族に報告しているが、職員の異動等については伝えることができていないため、今後は家族に職員の異動等についても理解が得られるように報告することが望まれる。家族の面会時には、職員が必ず声をかける等、話しやすい雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時に居室などで本人様とゆつくり過ごしてもらおうと声掛けしている。一緒におやつ等食べてもらうようにしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事の案内を出し参加を呼び掛けており、全員ではないが参加してくれている家族さんが増えている。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のお便り、ゆうなぎ通信で伝えたり写真を送付している。電話等でもやりとりしている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	いつでも気になる事や聞かれた事には伝えていっている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人様がよりよく暮らせるよう関わり方についても話し合い今後も出来るように支援していきたい。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事等伝えてはいるが、職員の退職や移動等については全部はできていない。	○		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会、行事には呼びかけを行っており、行事と一緒に楽しんでいる姿も見られる。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	一人一人自由に暮らしていくためには、何らかのリスクがあることを説明し、拘束にならないようその都度話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	出来ているスタッフ、出来ていないスタッフがいるが、普段から話し合える関係づくりに取り組んでいる。面会時には声をかけ話をするよう心掛けている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時きちんと説明をおこなっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	説明をし、相談にのりながら支援をしていっている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	金額の変更があった時には文章でお知らせしている。きちんと同意を得るようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	説明を行い理解を得ていると思う。	/	○	/	保育園児との交流が活発になり、事業所の餅つきやレクリエーションに参加してもらったり、昼食を一緒に作って食べたりしている。地域サロンとの付き合いもあり、地域住民との交流は深く、つながりもできている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地域の活動は全部は参加出来ていないが、今後もつながりは大切にしていきたい。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	外に出ている時に声は掛けてもらっている。支援してくれる人が今後増えていけるようになっていきたい。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	今後も気軽にきてもらえるようになっていきたい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶をしたり、行事には声掛けをしたり、外で会った時にはお話をしたりはある。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	サロンの方と食事作り、おやつ作りなど行事に参加してもらっている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援していきたい。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	町内の飲食店利用させてもらう時には前もって連絡し、美容室、交番の方にも協力をお願いしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回の利用者様の参加は難しいが家族の方の参加は増えてきている。	/	○	△	運営推進会議には、家族や地域等関係者の参加はあるが、利用者の参加がないため、今後は日程調整や議題を工夫する等、利用者が参加しやすい環境整備にも取り組むことが望まれる。会議では外部評価結果や目標達成計画等について報告している。参加者からの意見や提案は日々の取り組みやサービス向上に活かしており、その結果等についても報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	毎回テーマを決めて行っている。利用者様、職員の報告は行っている。自己評価、外部評価の結果、目標達成計画の内容とその取り組み状況など報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で言われて事は出来る事から取り組んでいる。そのうえで報告もしている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	沢山の方に参加してもらいたい為日程や時間帯を考えている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関先の欄に置いている為いつでも誰でも見られるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	朝の朝礼にて、毎日声に出して言うようにし、意識づけをし業務に入ってもらっている。毎月自分が取り組んでいるかの確認をしアンケートを作り提出してもらい、次に取り組めるようにコメントをしたりしている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関先、事業所内いろんな所に見えるように掲示している。	x	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修を受けられるようにしてもらっている。	/	/	/	今年7月に代表者が交代し、新代表者は毎日事業所を訪れて職員と関わることで、理解を深めようと努力している。古い電気製品を買い替え、気づいたことは見直す等積極的に取り組んでおり、職員が働きやすい職場環境づくりを実践している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	ゆうなぎの目標が達成できるよう職員が働きながらスキルアップできるように個人個人と話す時間を作っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	7月から代表者が変わり一つ一つ改善してもらっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着サービス協会や地域の連絡会に参加し他の事業所との交流にも取り組んでいる。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	軽減するための工夫を少しづつですが取り組んでいる。	/	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	職員会、カンファレンス、勉強会等において話し合い、研修に参加し学び理解している。	/	/	/	職員は虐待防止の対応方法や手順等を職員会議やカンファレンス等で話し合っており、見直す等積極的に取り組んでおり、職員が働きやすい職場環境づくりを実践している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	何気ない言葉や関わり、態度が不適切だった場合すぐに話し合い注意している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気を付けるようにしている。声をかけたり話を聞くようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会研修に参加、施設内にも張り紙があり誰もがみれるようになっている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会、カンファレンス等で話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族から要望が出たことはないが出た時には対応している。	/	/	/	

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	管理者や、一部の職員は理解しているが全職員は理解できていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	相談があれば支援を行っていきようにしたい。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要な時には連絡を取り相談している。今後も相談や協力依頼ができるようにしていきたい。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成しわかるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修に参加したり定期的に行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	小さなことでもヒヤリハットを出すことにより、大きな事故につながらないよう努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者、1人1人の状態をよく理解し事故につながるようなリスクを話し合っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	全員の理解は出来ていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	ちよつとしたことでもすぐに職員に伝え改善するようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対し速やかに対応し納得を得ながら話し合いと関係づくりを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置しているがあまり利用していない。日頃の関わりの中でさりげなく聞いたり言葉や表情、態度から思いを察するようにしている。気づいたことは職員間で話し合い、ケアに活かすようにしている。			○	新代表者は自ら直接利用者から意見を聞いている。家族からは、運営推進会議や家族会、面会時等に意見等を聞いている。管理者は職員全員から慕われ、何でも言い合える関係が築けており、職員の意見や提案を取り入れながら、利用者本位の支援につなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や家族会、面会時等で意見や要望、苦情を聞く機会をつくっている。		○	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	公的な窓口の情報提供を行っていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者が変わってからは現場にも足を運んでもらい直接聞く機会をつくってもらっている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	いつも話を聞く姿勢であり利用者本位の支援を考え行動されている。				

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年一回取り組んでいる。				運営推進会議で評価結果や目標、事業所の取組み等についても報告してモニターしてもらい、さらなるサービスの向上に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	学習していかないといけないことが多いため、活かしていきたい。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	一つ一つ達成できるように取り組んでいきたい。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターしてもらっている。	○	自己評価は家族にも見てもらっている。誰でもいつでも見られるようにしている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	している。これからもしていきたい。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成している。いつでも見られるようにしている。				新代表者が経営する3社合同で協力体制につながるように緊急連絡用名簿を作成した。運営推進会議メンバーに防災関係者がいることから協力を依頼している。日本各地を襲う天災を他人事と思わず、危機感を持って対応できるように意識向上につなげている。12月には起震車を予約しており、地域住民にも呼びかけて体験してもらおうことを考えている。今後は家族にも参加してもらい、緊急災害時の協力体制についての理解が得られる取組みが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に二回訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検を行い、非常用食料、備品、物品を準備している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	訓練に参加してもらい、協力支援体制を築いている。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	参加出来るようにしていきたい。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	取り組みされていない。今後取り組めるようにしていきたい。				町認知症連絡会で施設の選び方をテーマに相談やアドバイスを行うことがあるが、地域からの相談実績があまりないのが現状である。今後は事業所の相談支援を地域に積極的にPRし、地域の相談ニーズの充足に努めて欲しい。管理者は認知症カフェを立ち上げたいと思っている。現実的には難しいようであるが、前向きで行動的な管理者を中心に、地域の関係機関との協働活動を検討する等、積極的な取組みが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	何かあれば相談、支援を行えるようにしている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	サロン活動は出来ているが他の活動は出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	言ってくれる人はいたが実行できていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	イベントや集まりにも参加したり様々な人たちのネットワークを広げられるようにしていきたい。			×	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年10月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3893600027
事業所名	グループホームゆうなぎ
(ユニット名)	北棟
記入者(管理者)	
氏名	向成 良江
自己評価作成日	令和元年 9月 21日

<p>【事業所理念】 笑顔で穏やかに暮らし！</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 山際の高台に建つ事業所は、元中学校の寮を上手く活用している。利用者が地域住民と交流する機会を増やしてつながりをより深め、地域と関わりながら生活を継続する目標に向かって努力している。令和元年7月に交替した代表者は、利用者や家族の意見や要望等を把握し職員の意見等も取り入れて、建物の改装等できていなかったことを見直す等、積極的に取り組んでいる。管理者の利用者の自己実現を重視する熱い想いを職員は理解しており、利用者本位の支援を目標に日々ケアに取り組んでいる。新代表者や職員から慕われている管理者のもと、新体制で事業所の改革に努めており、今後がますます楽しみですである。</p>
--------------------------------	---------------------------------	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日頃の会話の中で思いや暮らし方の希望や意向を聞きとっている。	○	/	○	日々の暮らしの中でしたいことや行きたいところ等、利用者の思いを聞くことができています。現在、希望を言える利用者が多く、把握した情報は記録に残し、職員全員で共有している。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	その時の顔色や表情みたり家族からの情報をもとにしてその人の立場になって行動に移している。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時にも聞くようにしているが、面会に来られた時など本人をよく知る人達にも聞き話し合っている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	D-1・D-2のシートを利用し、本人の思いを聞きながら記録しているが前回不十分な箇所もあったため整理し記録している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	本人の思いを大切にしようとしているが職員一人一人の受け止め方が違うため、思い込みや決めつけで関わっているときも見られる時がある。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前に本人様・家族様・関係者様等からの情報を聞き取り、シート等に記録している。	/	/	○	事前調査でこれまで利用してきたサービス事業所のケアマネジャーや病院の担当者等から聞いている。家族や親族、友人等からも情報を得ており、聞き取った情報は記録している。
b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	△	アセスメントシートを使って状態を把握しているが、職員によっては対応の仕方で変わるため、職員間でも話し合って把握に努めている。	/	/	/			
c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	状態の変化、日頃の行動や発言など関わりながら記録する事で把握している。	/	/	/			
d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	不安や不安定になっている時はその前後に何があったか確認し把握に努め職員間でも伝えるようにしている。	/	/	/			
e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	本人1人1人の記録、関わりなどから把握ができています。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人が必要としている事を把握し、申し送り、カンファレンス、職員会等で意見交換し検討している。	/	/	○	カンファレンス等で利用者の視点に立ち、何を要望しているか、何を必要としているかを検討している。
b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	情報を元にかンファレンスなどで話し合い必要な支援をおこなっている。	/	/	/			
c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランを元に本人がよりよく暮らせる為の課題を明らかにしている。	/	/	/			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人様の情報、アセスメントを元に本人らしい暮らしが出来るケアプランの作成を心がけている。	/	/	/	利用者がより暮らしやすいように利用者や家族の意向を踏まえつつ、職員の意見やアイデア等を反映した介護計画を作成している。実際に利用者や家族の意向に沿って支援したことで要介護度が5から1になった利用者もいる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の思いや家族等の会話の中で意見を聞くことでアイデアを反映出来るよう作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者に対しても、最後までその人らしい暮らしが送れるような内容に近づけている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の人たちの協力があり交流が持っているが家族の協力が少ない為交流が少ない。今後も声掛けを行っていく。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	職員会やカンファレンス等で話し合い、介護記録の中にもプランを取り入れ職員間で共有できるようにしているが、内容の把握・理解をできない人がいるように思われる。	/	/	△	介護計画はいつでも確認できるように利用者一人ひとりのファイルに綴じているが、介護計画の内容を把握できていない職員もいるため、職員全員が把握するように徹底して取り組んで欲しい。計画に沿ったケアの実施は介護記録に残し、確認しながら日々のケアに活かせるように努めている。利用者の日頃の言葉や表情等、記録が不十分であるため、利用者一人ひとりの情報や職員の気づきやアイデア等を、わかりやすいように個別に記録して欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画をもとにケアを行い、その結果を評価し職員間で話し合いながら支援につなげている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	アセスメントや介護記録などに記録するようにしているが出来る時、出来ない時がある。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	個別に記録をとるように伝えているが出来る人、出来ない人がいる。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	カンファレンスで定期的な見直しは行っているが大きな変化があった場合にはその都度見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は6か月毎に見直している。月1回カンファレンス等で利用者の現状確認を行っている。利用者の心身等状態に変化が生じた場合は、その都度見直しを行い、状況に応じた新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	職員会で現状や変化の報告をし、他の方のカンファレンスの時にも確認を行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	その他の関係者が関わっている時にはその方たちとの見直しを行い、そうでない方は家族等で話し合いをし、見直しを行い、その方の現状にあった計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	職員会、カンファレンス、申し送り以外でも何かある時にはその都度話し合いを行っている。	/	/	○	毎月職員会議やカンファレンスを行うほか、緊急時にはその都度話し合う機会を作り、課題の解決にあたっている。参加できない職員も含め、議事録等を回覧・確認し、サインをすることで情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	会議等には全員が発言できるように声掛けしているが、そのときには発言が出ないがそれ以外で出するため今後工夫が必要と検討している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	多くの職員が参加できるよう日時は考えながら取り組んでいる。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	記録をとって回したり、職員会議後に仕事で参加出来なかった職員には伝えている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	介護日誌の伝達事項欄に記入し、みた人は必ず印を押すようにしている。大事なことには赤字で記入するようにしている。送り等でも口頭で伝え確認しあうようにしている。	/	/	○	利用者の状態の変化等を細かく記録している介護日誌の伝達事項欄を、必ず職員全員で確認・共有しており、確実に情報が伝達できるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	朝・夕の申し送りを必ず行い、早出は日勤、遅出にも情報を伝えている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日頃の会話の中でしたい事が無いか聞いたりしている。その日にしたい事があるとと言われる人には実行している。	/	/	/	毎日の衣服やおやつ時の飲み物等、自分で選んでもらうようにしている。利用者にはできることを取り組んでもらっており、手伝ってくれた時は、ありがとうの感謝の言葉を伝えて利用者の意欲が高まるようにしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定が出来るような声掛けをしている。例えばおやつ時の飲み物等選んでもらうようにしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自分のしたい事、言いたい事は言われていると思う。出来る範囲で支援を行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者のペースで生活出来ているが入浴時の時間やタイミングが難しい時はある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者のしたい事出来る事はしてもらうことにより笑顔もみられその都度感謝の言葉を伝えてしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情やこぼり等からよみとるようにし、本人にとってよい暮らし方ができるように支援していきたい。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会では学んでいるが、声掛け等で問題のある職員にはその都度注意している。	/	○	◎	△
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	言葉遣いや態度に気を付けていない職員が居る為その都度注意している。職員会、カンファレンス、申し送りでも話し合いを行っているがなかなか改善ができていない。	/	/	/	△
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	少しずつできてきている。	/	/	/	/
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	訪室時にはノックはしているが、声掛けがきちんと出来ていない時がまだあるかもしれない。	/	/	/	△
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	会議等で伝え、必ず守ってもらうようにしている。	/	/	/	/
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事を一緒に行うことで感謝の言葉、気持ちを伝える事で関係性を築けている。	/	/	/	利用者同士の関係性を把握して配席する等配慮している。世話好きな利用者、孤立した利用者が出ないように見守ってもらっている。利用者同士が不穏になりそうな時は、職員が仲介する等トラブルを未然に防ぐようにしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士が、声を掛け合ったり、いたわりあいながら暮らしていく大切さを理解出来ている職員もいる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員が仲立ちしたり、利用者にも声掛けをしながら助けてもらうこともある。食事の時などの席替えを行ったり体調によってはみんなに伝えながら利用者同士の関係を悪くならないように気を付けている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	何かあった場合にはさりげなく間に入って話をしたりさりげなく移動をしたりで大きなトラブルは今はおきていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	自宅にもどられた際に近隣の方に挨拶をしたり、面会に来られた時に話を聞いたりしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人様、家族様からの聞き取り、会話中の情報等で馴染みの美容室などの把握できている。利用者様の住まれていた場所などにドライブに行ったりすることもある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	お墓参り、集まりの会などに出かけたり、ハギキや手紙、電話でのやり取りを行っている利用者様もいるし、自宅に帰られた時近所に声を掛けに行ったりしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	来られた方が居室やフロアでゆっくり過ごせるよう声掛けを行っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	地域の行事や庭先で過ごしたり、散歩に出かけている。	○	△	○	庭先に出て外気浴や散歩をしたり、畑の野菜を見に出たりしている。保育園と連携して定期的に行事に参加させてもらう等外出も増えている。重度の利用者を含め、戸外で過ごす時間を増やし、少しでも気分転換が図れるようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援はできていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	状態を見ながら皆と同じように過ごせるよう取り組んでいる。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族の協力で行けている方も一部居られるが今後も継続し支援していきたい。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症の勉強会は行っている。利用者様の状態の変化時にはその都度話し合いを行っている。	/	/	/	台拭きや自分のコップを洗う等、利用者にはできることを取り組んでもらっており、職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	全員は出来ていないが、少しずつ取り組むことでできるようになってきている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	日常生活の中で家事等出来る事を利用者様同士で行うことが増えてきている。出来ない事は声掛けし、一緒に行うようにしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者様の生活歴、楽しみごと等考え把握している。	/	/	/	ゴミ出しや調理の下ごしらえ等、利用者には何らかの役割や出番があり、楽しみながら取り組んでもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	看取りの方、目の見えない障害の方でも自分のしたい事をし過ごせるよう取り組みを行っている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中では参加は出来ていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好みの髪型、化粧等聞き取りながら把握している。				整容の乱れや汚れがないように注意を払っているが、気づかない職員もいるため、職員全員が常に利用者の様子を確認し、さりげないカバーをする等、徹底して取り組んで欲しい。重度の利用者を含め、訪問美容等できれいに整髪し、本人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	自分で出来る方は好きなようにされている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けをしながら出来る範囲で支援を行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出や、行事がわかる方はおしゃれをされたりしているが分からない方には声掛けを行いながら服装等を決めてもらうよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	気づけない職員が居る為その職員にその都度声掛けを行っている為、さりげなくカバーできている。	○	○	△	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	希望される方は本人様、家族様が希望される店に連れて行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人様が行きつけの美容室に行けなくても、来てもらい本人様の好まれえる髪型にしてもらっている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	職員によっては大切さを理解しているのではなく食べさせているだけになっているため会議等で話し合っている。				調理の下ごしらえや後片付けなどができる利用者は、職員と一緒にいる。食べたいメニューを聞き、ちらし寿司や芋ご飯、芋炊き等季節感のある料理を取り入れている。食器は使い慣れたものを使用している。職員も一緒に席につき、利用者のいただきますの大きなかけ声で食事が始まるようになっており、必要に応じて声をかける等サポートにも努めている。重度の利用者を含め、リビングに出て調理の音や匂い等雰囲気味わってもらっている。利用者の状況に応じた食事の提供ができるように管理者を中心に話し合い、場合によっては医師のアドバイスを受ける等、利用者がバランス良く栄養が摂れるようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	◎	献立作りには利用者様が食べたいメニューを聞きながら取り入れている。調理、後片付けも出来る利用者様と一緒にしている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者様との関わりの中で得意な事、出来そうな事等を声掛けしながら一緒にしている。感謝の言葉は必ず伝えるようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前や本人・家族様からの聞き取りの中での情報を職員間で話確認あっている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	利用者様の希望を聞き一緒にメニュー作りを行っている。頂いた物や旬の物などを季節に応じて取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者様一人一人に合った器の工夫や食事形態に合わせた調理方法、ミキサー食、キザミ、トッピングなどは出来ている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本人様の使い慣れたものを持ってきてもらい使っている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に時間を一緒に食事をしながら、見守り、一部介助を行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	看取りの方でも食堂でみんなと一緒に過ごされている為、音やにおいは伝わっていると思われる。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量、水分量の確認は行っている。食事量が少ない方には、違う物で対応している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	時間をずらしたりタイミング等をみながら、脱水にならないよう取り組んでいる。食事とられない方は別の物で本人が食べられる物で対応している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士のアドバイスは受けていないが、職員同士で話し合いは行っている。栄養士のいるところから献立表を頂いて参考にさせてもらっている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎日の買い物で新鮮な食材を使用している。調理用具も衛生管理を日常的に行っている。				

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	勉強会などを行い、理解している。				自分で歯みがきができる利用者には、任せきりなところがあるため、口腔内の状況を確認できておらず、清潔保持ができていないと言いたいため、今後は利用者全員の口腔内の健康状況を確認し、常に清潔が保持できるように努めることが望まれる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	自分で口腔ケアをされている方に対する確認がきちんとできていない時がある。自分で口腔ケアをしている方にも最後確認し出来ていない方の磨きなおし等行いながら把握に努めている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯科医に毎月来てもらい口腔ケアについて学んでいる。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	本人が出来ない方は職員が行い、自分で出来る方は行えるよう声掛けをしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、声掛け誘導を行っている。清潔が保てるようにしている。			△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	すぐに予約を取り受診を行っている。定期的に歯科を受診するなど対応を行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	できるだけ最後までトイレでの排泄が出来るように対応している。				職員は排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導する等、トイレでの排泄を基本とした支援に努めている。職員はおむつ等排泄用品の必要性について話し合い、利用者一人ひとりのその時の状態に適したものを使用するようにしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	職員によっては理解できていないためカンファレンス等で話し合っている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表、記録をとる事で把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	食事の前後にトイレに座る習慣をつける。出来ない時などは排泄チェック表でパターンを把握し、トイレ誘導、支援を行っている。一人一人にあったパッドを使用している。	◎	◎		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	体操、散歩、乳製品を取り入れたりと改善に向けた取り組みを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	記録をとることで一人一人のパターンを把握し声掛け誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人様や家族様と話し合いをしながら支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の状態などに合わせて使い分けるようにしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	乳製品や体操、散歩を取り入れている。水分量の少ない方には声掛けを行いしっかりとってもらうようにしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	分かる方には声掛けをしながら、希望に沿って入浴してもらっている。	◎		◎	週2回入浴を基本としているが、利用者の要望があれば毎日の入浴も可能である。時間帯や湯温等、利用者一人ひとりの希望を尊重し、臨機応変に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	本人のペースに合わせた支援を行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の出来る範囲で入浴してもらい、出来ない事の支援を行い安心して入浴してもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	話をしたり、時間をあけたりしながら声掛け対応をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴時にはバイタル測定をし日中の本人の状態を伺いながら行っている。入浴後、水分補給をし状態確認している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録をとったり送りなどで睡眠パターンを把握している。	/	/	/	日中活動を増やし、早くから床につかないように配慮することで、安眠につながるよう工夫しており、安易に薬剤に頼らないようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中声掛け作業などで体を動かすことなど工夫している。日中でできるだけ起きといてもらおうように声掛けしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	本人が希望される方、入所前から飲まれていた方には、医師との相談で服用されてる方もいるが、それ以外の方は出来るだけ薬に頼らず医師とも連携を取りながら指示に従って支援を行っている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自由にされ好きな時に部屋に戻り休まれる方もいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	自分で電話が掛けられない人に対しては、掛けてあげる事でお話されている。手紙のやりとりもされている方おられる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	出来ない方でしようとする方には手助けを行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	いつでも電話出来るようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に渡すが本人がそのままにされている事が多い為、家族に伝えている。部屋に持って行って工夫している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	何度も電話をかけたがる方には、家族に協力してもらう事もある。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解は出来ている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	利用者が行きたいとき欲しい物がある時には出掛けている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	周りにお店がないため、スーパーまで職員と行かれる事が多い。移動スーパーに毎週来てもらっている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族とも相談をしたうえで施設内での金額は決めてもらっているが、自分で使えるように支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	面会時に家族様と話し、本人様ともその都度話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族様の同意を得ている。出納長のサインを毎月もらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	出来る限り、本人様や家族様の意向に取り組めるように行っている。	○	/	○	墓参りや実家への帰省等、利用者や家族から要望があれば臨機応変に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	工夫はされていないが自由に出入りが出来るようにしている。	◎	◎	◎	木々が多いため、毎日の落ち葉拾いをこまめに行い、玄関をはじめとした事業所の周りはきれいに清掃されている。プランターには季節の花を植える等、親しみやすく入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	馴染みのある使いやすい物を設置し利用している。家庭的な雰囲気をだせるようにしている。	○	○	○	玄関にはめだかと亀の水槽が置かれ、利用者が名前を付けて可愛がっている。元中学校の寮であったことから食堂、トイレ、風呂場は面影が残る、懐かしい感じがする。清掃が行き届き、時間を決めて換気し、空気清浄機を置く等、臭いもなく清潔感がある。壁には手作りカレンダーや行事ごとの写真を飾るほか、窓からは事業所を囲むように木々が見えるため、季節感を楽しむことができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	時間で換気をしたり、掃除等も時間を見つけて行っている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	臭いや音等、生活感があるように心掛けている。手作りカレンダー-季節感を感じるものを飾っている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	いろんな所に椅子やソファを置いて、一人になれる場所をつくっている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	カーテンを使ったり工夫はしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅から持ってきてもらい馴染みの物を使っている。	○			時計や籐のいす、こたつ、寝具等、利用者が使い慣れた物を持ち込み、住み慣れた実家での生活が継続できるように配慮している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	案内を書いたり手すりを使って自立した生活が送れるようにしている。			○	危険防止のため、硬い床にマットを敷いている。利用者が自由に点灯や消灯ができるように室内蛍光灯にひもをつけ、安全に自立した生活が送れるように配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	場所が分かるように掲示している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	日中皆が過ごしている場所においてありいつでも使えるようにしてある。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	職員にはきちんと伝え理解してもらっている。	◎	◎	◎	職員全員が玄関等に鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関は施錠されておらず、自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族の方には理解してもらっている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関にセンサーをつけている。何かあったときには近隣の方に連絡してもらっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に聞いた情報をシートにまとめ、職員間で確認し合ったり伝達しあっている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタル測定のほか食事、水分、排泄、睡眠、体重等の状態を個別に記録しチェックしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	何かがあるときにはナース、ドクター、薬剤師に連絡をし気軽に相談できるようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人様、家族様が希望する病院に受診している。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人様、家族様の希望を取り入れつつ、かかりつけ医院と事業所の関係を築きながら支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診後、必ず家族に連絡し伝えている。申し送りなどで職員にも情報を伝達している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	個別記録等を持参し日頃のケア、内容など情報はきちんと提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	受診時にわかる範囲で伝えるようにしている。入院しても病院と連携を取り状態を確認している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	相談員さんたちと関係づくりしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	協力医療機関の看護師、薬剤師に伝え、相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間いつでも連絡が付き、対応可能な体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日のバイタル測定を行っている。ドクター、ナース、薬剤師に、変化や異常が見られた場合にはすぐに報告し適切な対応が出来るようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋はいつでも確認出来るようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	△	飲み忘れや誤薬を防ぐ為、何か気になる事がある時には確認が出来るように薬剤師が入っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬剤師が入っている事で本人様一人一人確認してもらったり状態を伝えたりして確認を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬剤師が入る事で、経過や変化など伝えて、見直しや状態を主治医に伝えてもらっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居前には家族に確認を行っている。その都度家族、主治医と相談、話し合いを行っている。	/	/	/	看取り指針を定め、重度化や終末期の対応について家族や医療関係者、職員等を交えて話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	本人様、家族様とのやり取りだけではなく、必要に応じて看護師、ドクターと話し合い、本人様にとってどうあったらよいか確認しながら支援内容を検討している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	電話、メールに連絡したらすぐに対応出来るようにしてもらっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	伝えようとして対応を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	準備を行っている。連携を図りながら体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	その都度話を聞いてあげているが職員の声掛け次第で不安にさせたことがあった為、十分気を付けるようもう一度再確認している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修に行ったり勉強会などで報告し学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	流れの書いてあるマニュアルのもと、いつでもできるよう訓練を行っていききたい。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビや新聞などで情報は取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	学校、病院、施設等から情報を得て予防対策等対応出来るようにしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関先に消毒・マスクを置いたり、各部屋の洗面台にも消毒を設置している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	家族との交流、面会時に話が出来ている職員もいる。				そうめん流しやクリスマス会、バーベキュー等、家族が参加できる機会を作って交流を深めている。遠方の家族を含め、毎月担当職員がゆうなぎ通信と手紙を添えて送り、利用者の様子を伝えるようにしている。事業所の行事等は家族に報告しているが、職員の異動等については伝えることができていないため、今後は家族に職員の異動等についても理解が得られるように報告することが望まれる。家族の面会時には、職員が必ず声をかける等、話しやすい雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時に居室などで本人様とゆつくり過ごしてもらおうと声掛けしている。一緒におやつ等食べてもらうようにしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事の案内を出し参加を呼び掛けており、全員ではないが参加してくれている家族さんが増えている。		◎	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のお便り、ゆうなぎ通信で伝えたり写真を送付している。電話等でもやりとりしている。		◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	いつでも気になる事や聞かれた事には伝えていっている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人様がよりよく暮らせるよう関わり方についても話し合い今後も出来るように支援していきたい。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事等伝えてはいるが、職員の退職や移動等については全部はできていない。		○	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会、行事には呼びかけを行っており、行事と一緒に楽しんでいる姿も見られる。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	一人一人自由に暮らしていくためには、何らかのリスクがあることを説明し、拘束にならないようその都度話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	出来ているスタッフ、出来ていないスタッフがいるが、普段から話し合える関係づくりに取り組んでいる。面会時には声をかけ話をするよう心掛けている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時きちんと説明をおこなっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	説明をし、相談にのりながら支援をしていっている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	金額の変更があった時には文章でお知らせしている。きちんと同意を得るようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	説明を行い理解を得ていると思う。	/	○	/	保育園児との交流が活発になり、事業所の餅つきやレクリエーションに参加してもらったり、昼食を一緒に作って食べたりしている。地域サロンとの付き合いもあり、地域住民との交流は深く、つながりもできている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地域の活動は全部は参加出来ていないが、今後もつながりは大切にしていきたい。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	外に出ている時に声は掛けてもらっている。支援してくれる人が今後増えていけるようにしていきたい。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	今後も気軽にきてもらえるようにしていきたい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶をしたり、行事には声掛けをしたり、外で会った時にはお話をしたりはある。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	サロンの方と食事作り、おやつ作りなど行事に参加してもらっている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援していきたい。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	町内の飲食店利用させてもらう時には前もって連絡し、美容室、交番の方にも協力をお願いしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回の利用者様の参加は難しいが家族の方の参加は増えてきている。	/	○	△	運営推進会議には、家族や地域等関係者の参加はあるが、利用者の参加がないため、今後は日程調整や議題を工夫する等、利用者が参加しやすい環境整備にも取り組むことが望まれる。会議では外部評価結果や目標達成計画等について報告している。参加者からの意見や提案は日々の取組みやサービス向上に活かしており、その結果等についても報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	毎回テーマを決めて行っている。利用者様、職員の報告は行っている。自己評価、外部評価の結果、目標達成計画の内容とその取り組み状況など報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で言われて事は出来る事から取り組んでいる。そのうえで報告もしている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	沢山の方に参加してもらいたい為日程や時間帯を考えている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関先の欄に置いている為いつでも誰でも見られるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	朝の朝礼にて、毎日声に出して言うようにし、意識づけをし業務に入ってもらっている。毎月自分が取り組んでいるかの確認をしアンケートを作り提出してもらい、次に取り組めるようにコメントをしたりしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関先、事業所内いろんな所に見えるように掲示している。	x	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修を受けられるようにしてもらっている。				今年7月に代表者が交代し、新代表者は毎日事業所を訪れて職員と関わることで、理解を深めようと努力している。古い電気製品を買い替え、気づいたことは見直す等積極的に取り組んでおり、職員が働きやすい職場環境づくりを実践している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	ゆうなぎの目標が達成できるよう職員が働きながらスキルアップできるように個人個人と話す時間を作っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	7月から代表者が変わり一つ一つ改善してもらっている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着サービス協会や地域の連絡会に参加し他の事業所との交流にも取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	軽減するための工夫を少しづつですが取り組んでいる。		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	職員会、カンファレンス、勉強会等において話し合い、研修に参加し学び理解している。				職員は虐待防止の対応方法や手順等を職員会議やカンファレンス等で話し合っており、不適切な言動や対応があった場合は、職員同士でその都度注意するようしており、見過ごすことのないようにしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々話し合っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	何気ない言葉や関わり、態度が不適切だった場合すぐに話し合い注意している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気を付けるようにしている。声をかけたり話を聞くようにしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会研修に参加、施設内にも張り紙があり誰もがみれるようになっている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会、カンファレンス等で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族から要望が出たことはないが出た時には対応している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	管理者や、一部の職員は理解しているが全職員は理解できていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	相談があれば支援を行っていきようにしたい。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要な時には連絡を取り相談している。今後も相談や協力依頼ができるようにしていきたい。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成しわかるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修に参加したり定期的に行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	小さなことでもヒヤリハットを出すことにより、大きな事故につながらないよう努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者、1人1人の状態をよく理解し事故につながるようなリスクを話し合っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	全員の理解は出来ていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	ちよつとしたことでもすぐに職員に伝え改善するようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対し速やかに対応し納得を得ながら話し合いと関係づくりを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置しているがあまり利用していない。日頃の関わりの中でさりげなく聞いたり言葉や表情、態度から思いを察するようにしている。気づいたことは職員間で話し合い、ケアに活かすようにしている。			○	新代表者は自ら直接利用者から意見を聞いている。家族からは、運営推進会議や家族会、面会時等に意見等を聞いている。管理者は職員全員から慕われ、何でも言い合える関係が築けており、職員の意見や提案を取り入れながら、利用者本位の支援につなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や家族会、面会時等で意見や要望、苦情を聞く機会をつくっている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	公的な窓口の情報提供を行っていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者が変わってからは現場にも足を運んでもらい直接聞く機会をつくってもらっている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	いつも話を聞く姿勢であり利用者本位の支援を考え行動されている。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年一回取り組んでいる。				運営推進会議で評価結果や目標、事業所の取組み等についても報告してモニターしてもらい、さらなるサービスの向上に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	学習していかないといけないことが多いため、活かしていきたい。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	一つ一つ達成できるように取り組んでいきたい。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターしてもらっている。	○	自己評価は家族にも見てもらっている。誰でもいつでも見られるようにしている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	している。これからもしていきたい。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成している。いつでも見られるようにしている。				新代表者が経営する3社合同で協力体制につながるように緊急連絡用名簿を作成した。運営推進会議メンバーに防災関係者がいることから協力を依頼している。日本各地を襲う天災を他人事と思わず、危機感を持って対応できるように意識向上につなげている。12月には起震車を予約しており、地域住民にも呼びかけて体験してもらおうことを考えている。今後は家族にも参加してもらい、緊急災害時の協力体制についての理解が得られる取組みが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に二回訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検を行い、非常用食料、備品、物品を準備している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	訓練に参加してもらい、協力支援体制を築いている。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	参加出来るようにしていきたい。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	取り組みされていない。今後取り組めるようにしていきたい。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	何かあれば相談、支援を行えるようにしている。		×	△	町認知症連絡会で施設の選び方をテーマに相談やアドバイスをを行うことがあるが、地域からの相談実績があまりないのが現状である。今後は事業所の相談支援を地域に積極的にPRし、地域の相談ニーズの充足に努めて欲しい。管理者は認知症カフェを立ち上げたいと思っている。現実的には難しいようであるが、前向きで行動的な管理者を中心に、地域の関係機関との協働活動を検討する等、積極的な取組みが望まれる。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	サロン活動は出来ているが他の活動は出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	言ってくれる人はいたが実行できていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	イベントや集まりにも参加したり様々な人たちのネットワークを広げられるようにしていきたい。			×	